



グローバルイノベーション コンサルティング株式会社

2011年4月に、海外進出する日系企業と海外パートナーの支援を目的に設立されたグローバルイノベーションコンサルティングでは、4カ国の拠点が独自に導入していた会計システムを一元化することを決定。ビジネスエンジニアリング（B-EN-G）のクラウド型国際会計アウトソーシングサービス「GLASIAOUS」を選定することで、会計情報の見える化を実現すると同時に、顧客に提供する会計アウトソーシングサービスの基盤を構築することができた。



グローバルイノベーションコンサルティング株式会社
<https://www.gicjp.com/>

設立 2011年4月1日
従業員数 273名（2019年4月1日現在／海外拠点含む）
資本金 8,700万円（資本準備金含む）
事業内容 海外進出・運用支援サービス、バイリンガルITエンジニア派遣事業、ミャンマーオフショア開発事業

「海外進出する日系企業と海外パートナー双方の成功に貢献すること」という経営理念に基づき、日本、ミャンマー、フィリピン、米国の拠点で日系企業の戦略的な海外進出支援、および調査から経理、給与、採用、研修代行までのバックオフィス業務をオールインワンで提供。フィリピンにおけるM&Aやミャンマー人バイリンガルITエンジニアの有料職業紹介業務も展開している。

4カ国の拠点の会計情報を 1つのシステムで見える化 月次決算を大幅に短縮し 迅速な経営判断を実現

改善点 会計処理の一元化と時間短縮、作業効率化／人材の流動性の確保／迅速な経営判断の支援／顧客企業向けの会計アウトソーシング基盤の構築

導入製品 GLASIAOUS

POINT グローバル対応、クラウド対応、かつ海外進出している日系企業への会計処理のアウトソーシングサービスに利用できる点を評価してGLASIAOUSの採用を決定。会計情報の一元化を実現したことで、各拠点の情報を短期間で正確に把握できるようになり迅速な経営判断を可能にしている。

導入前の課題

- 4カ国の拠点で個別に会計処理を行っているため全社的な会計情報が把握しづらかった
- ミャンマーの拠点では会計に通じたスタッフが少なく教育が必要だった
- 本社で一元管理できる会計システムをクラウドサービスとして顧客に提供したい



導入後の効果

- 会計情報の一元化により各拠点の情報を短期間で正確に把握
- 全拠点で同じ会計システムを利用することで人材の流動性も確保
- 会計アウトソーシングのサービスを自社で評価し、顧客に展開するための足がかりに

グローバル対応とクラウドが決め手に 日系企業向け会計アウトソーシングの基盤としても期待

各拠点で異なる会計システム グローバルでの統一が課題に

2011年4月の設立以来、日本、ミャンマー、フィリピン、米国の拠点で、海外進出・運用支援サービス、バイリンガルITエンジニア派遣、ミャンマーオフショア開発を事業として展開するグローバルイノベーションコンサルティング株式会社（以下、GIC）。最大の特徴は、日本人、フィリピン人の社員がそれぞれ全体の5%ずつで、残りの90%がミャンマー人であることだ。女性の比率が約80%であることも特徴の1つである。

代表取締役社長である岩永智之氏は、「海外に進出する日系企業へのコンサルティングが主な事業ですが、近年は日本企業の人材不足もあり、ミャンマー人の日本国内への人材派遣や有料職業紹介のニーズが増えています。2018年は、GICミャンマーで1,300名が試験を受けて350名が合格。ミャンマーの拠点で1年半～2年、無償で研修を受けて日本語検定2級を取得してもらい、日本企業に派遣する事業モデルを展開しています」と語る。

他社との最大の違いは、GICの経理、総務、営業、マーケティングなどの人材もミャンマー人を採用していることだ。岩永氏は、「日本人の社員は少なく、総勢273名の社員が、日本、ミャンマー、フィリピン、米国の各拠点で事業を展開しています」と話す。

GICでは、自社の会計業務においては、国によって言語や通貨、税制などの違いがあるために、各拠点がそれぞれに会計システムを導入して処理を行っていたという。そのため、日本からミャンマー、フィリピン、米国の会計情報を必要ときに把握するのが難しいことが課題であった。管理本部長である岡部清人氏は、「会計システムを拠点ごとに個別に導入していたので、必要な情報を集めようとするにも各拠点に個々に連絡する必要があり、少なからず手間になっていました。年次決算はデータを収集して確認しますが、月次決算は各拠点に任せていました」と話す。この課題解決に向け、GICではグローバルに対応した会計システムの導入を決定することとなった。

自社だけでなく顧客向けの サービス基盤にも使える会計システムを導入

GICでは、2017年9月に、新たな会計システムとしてGLASIAOUSを選定し、米国拠点の設立に合わせて、まずは同拠点に先行導入した。その後、操作性や機能などの検証を実施し、2018年4月から日本、ミャンマー、フィリピンの各拠点に導入した。GLASIAOUS採用の最大の決め手は、クラウドサービスであったことだ。各拠点にサーバーやネットワークを構築する必要もなく、運用管理も不

CASE STUDY

／
コンサルティング業

グローバルイノベーション コンサルティング株式会社



グローバルイノベーション
コンサルティング株式会社
代表取締役社長
岩永 智之 氏



グローバルイノベーション
コンサルティング株式会社
管理本部長
岡部 清人 氏



グローバルイノベーション
コンサルティング株式会社
管理本部 営業管理
トゥエ トゥエ ライン 氏



グローバルイノベーション
コンサルティング株式会社
管理本部 経理担当
ジン ニン プィン 氏

要だ。ブラウザさえあればどの拠点からでも利用でき、導入から運用までのコストも低減できる。岩永氏は次のように語る。

「いくつかの製品を比較検討しましたが、グローバル対応、クラウドの要件を満たし、かつ海外進出する日系企業のお客さまに向けた会計処理アウトソーシングサービス用途に展開できるシステムはGLASIAOUSしかありませんでした。現在、5名の公認会計士がいるフィリピンの拠点では、すでに20社程度の日系企業に会計のアウトソーシングサービスを提供していますが、今後は新規のお客さまからその業務にGLASIAOUSを使用する計画です。その後は、日本国内でも同様のサービスの展開を検討しています」

各拠点の会計情報を統合的に把握 経営に必要な情報もすぐに準備可能に

日本、ミャンマー、フィリピン、米国で会計システムを統一したGIC。岡部氏は、「まだすべての機能を使いきれていませんが、GLASIAOUSを導入したことで、会計情報を一元化することができ、各拠点の情報を短期間で正確に把握できるようになったので非常に便利になりました」と話す。

またシステムの統一は拠点間で人材の流動性を高めることにも貢献している。岡部氏は「例えば日本で働いているミャンマー人が自国に帰国してもそこで同じ会計の仕事をすることができます」と話す。

さらに、管理本部で経理を担当するジンニンピン氏は「GLASIAOUSは、債権消込処理が非常に簡単です。以前は、約2日かかっていた作業が、GLASIAOUSであれば半日でできるようになりました」と話す。同じく管理本部にて営業管理を担当するトゥエトゥエライン氏は、「請求書の作成には、これまで2つのソフトウェアを使い分けていたのですが、GLASIAOUSを導入してから1つのソフトウェアで作業できるようになったのでワークフローが簡単になり、作業が楽になりました」と話す。

もちろん、そのメリットは経理部門だけではない。岩永氏は、「GLASIAOUSの導入により、各拠点での月次決算が可能になり、数日程度で損益計算書や貸借対照表など、すべての会計資料がそろい、取締役会にも報告できるようになりました。これまでは、各拠点任せだった数字を統合的に見ることができるので、経営判断もしやすくなり、もし問題が発生しても迅速に対応することができます」と説明する。GICでは将来的には、株式上場も視野に入れ、それに向けた準備の一環としてもGLASIAOUSの存在に期待を示している。